

第19回 ロビー音楽会



演奏 : 九州交響楽団の仲間たち

日時 : 2012年12月18日(火)
午後6時3分開演

会場 : 前田病院外来ロビー

Yama ちゃんの

おしゃべりコンサート 12月

ヴィオラ奏者山下典道「Yama ちゃん」の司会進行でお届けする
室内楽のひとつときを、どうぞお楽しみください。



〈演奏 九州交響楽団の仲間たち〉

- | | |
|-------|------------------|
| 川田知子 | (ヴァイオリニスト) |
| 佐藤仁美 | (九州交響楽団ヴァイオリン奏者) |
| 山下典道 | (九州交響楽団ヴィオラ奏者) |
| 猿渡友美恵 | (九州交響楽団ヴィオラ奏者) |
| 市 寛也 | (NHK交響楽団チェロ奏者) |
| 中川淳一 | (ピアニスト) |
| 林 紋子 | (ピアニスト) |



< プログラム >



☆クリスマスメドレー

弦楽合奏

☆サンサーンス：白鳥

☆カザルス：鳥の歌

市 寛也 (VC) 中川淳一 (Pf)

☆モーツァルト：歌劇「魔笛」より

おいらは鳥刺し (ババゲーノ)

恋を知る男達 (ババゲーノ&ババゲーナ)

魔笛の力強い調べは (タミーノ)

誰しも恋の喜びを知り (奴隷頭モノスタートス)

夜の女王

川田知子 (1st Vn) 佐藤仁美 (2nd Vn)

☆黛 敏郎：文楽

市 寛也 (VC)



休憩



☆ヴィターリ：シャコンヌ

☆グノー：アヴェ・マリア

☆クライスラー：ラ・ジターナ (ジプシーの女)

川田知子 (Vn) 林 紋子 (Pf)

☆ブラームス：ピアノ5重奏曲 Op.34 へ短調 ～ 第1楽章

川田知子 (1st Vn) 佐藤仁美 (2nd Vn)

猿渡友美恵 (Va) 市 寛也 (VC)

中川淳一 (Pf)

☆カザルス、パブロ（1876～1973）

カタルーニャ生まれのチェロ奏者、指揮者、作曲家。1890年、バルセロナの楽器店でそれまで知られていなかったバッハの無伴奏チェロ組曲の楽譜と運命的な出会いをする。ティボー（Vn）、コルトー（Pf）と結成したカザルス三重奏団は数々の名演を生んだ。

<鳥の歌 El Cant dels Ocells>

カタルーニャ民謡。第二次世界大戦終結の後、カザルスが故郷への思慕と平和の願いをこめて演奏して世界に広まった。1971年カザルス94歳のとき、ニューヨーク国連本部において「私の生まれ故郷カタロニアの鳥は、ピース、ピース（平和）と鳴くのです」とこの曲を演奏したエピソードは伝説的。

☆モーツァルト、ウォルフガング・アマデウス（1756～1791）

<歌劇「魔笛」より>

興行主シカネーダーが自分の一座のために書いた歌芝居。ラムセスの時代のエジプトが舞台。王子タミーノがさまざまな試練を魔法の笛を使って乗り越え、美しい王女パミーナと結ばれる。従者パパゲーノの「おいらは鳥刺し」や「夜の女王」のアリアは誰もが耳にしたことのある旋律。

☆黛 敏郎（1929～1997）

東京音楽学校、パリ音楽院で学ぶ。芥川也寸志や團伊玖磨とともに「三人の会」を結成し、現代音楽界の俊英として活躍。テレビ番組「題名のない音楽会」の司会者としても有名。代表作には、梵鐘の音をコンピューターで解析してオーケストラで再現した『涅槃交響曲』、三島由紀夫の小説に基づくオペラ『金閣寺』、忠臣蔵を題材としてモーリス・ベジャールが振付けたバレエ『ザ・カブキ』など。

<文楽>

無伴奏チェロのための『BUNRAKU』は、1960年に倉敷の大原美術館30周年記念行事のために作曲され、大原総一郎に捧げられた。文楽（人形浄瑠璃）の世界をチェロで表現したもので、三味線の音色はピチカートで、語りの義太夫節は弓によって奏でられ、あたかも近松の世界が眼前に迫るようである。

☆ヴィターリ、トマソ・アントニオ（1663～1745）

イタリアのヴァイオリニスト、作曲家。1674年、父ジョヴァンニ・ヴィターリとともにモデナのエステ家の宮廷に仕えた。1707年には宮廷楽長となり、生涯モデナにとどまった。作品はすべて器楽作品。

<シャコンヌ>

19世紀のヴァイオリン奏者フェルディナンド・ダーヴィットがヴァイオリンとピアノのために編曲したものを原形として、20世紀初頭にレオポルド・シャルリエがさらに編曲したものが一般には演奏される。憂愁漂うロマン派的な旋律が美しい。

☆クライスラー、フリッツ（1875～1962）

ウィーン生まれの世界的ヴァイオリニスト、作曲家。ユダヤ系であったため、ナチス台頭の1939年にアメリカへ渡る。数々の美しいヴァイオリン曲を残している。

☆ブラームス、ヨハネス（1833～1897）

<ピアノ5重奏曲へ短調作品34>

弦楽四重奏にピアノを加えた形の室内楽曲。当初、弦楽五重奏（ヴァイオリン2、ヴィオラ1、チェロ2）の楽器編成で試演されたが不評であったため、2台ピアノのためのソナタとして書き換えてブラームス自身が初演した。その後、クララ・シューマンの助言などで、ピアノ五重奏曲として書き直したもの。ブラームスの傑作のひとつ。

☆カザルス、パブロ（1876～1973）

カタルーニャ生まれのチェロ奏者、指揮者、作曲家。1890年、バルセロナの楽器店でそれまで知られていなかったバッハの無伴奏チェロ組曲の楽譜と運命的な出会いをする。ティボー（Vn）、コルトー（Pf）と結成したカザルス三重奏団は数々の名演を生んだ。

<鳥の歌 El Cant dels Ocells>

カタルーニャ民謡。第二次世界大戦終結の後、カザルスが故郷への思慕と平和の願いをこめて演奏して世界に広まった。1971年カザルス94歳のとき、ニューヨーク国連本部において「私の生まれ故郷カタロニアの鳥は、ピース、ピース（平和）と鳴くのです」とこの曲を演奏したエピソードは伝説的。

☆モーツァルト、ヴォルフガング・アマデウス（1756～1791）

<歌劇「魔笛」より>

興行主シカネーダーが自分の一座のために書いた歌芝居。ラムセスの時代のエジプトが舞台。王子タミーノがさまざまな試練を魔法の笛を使って乗り越え、美しい王女パミーナと結ばれる。従者パパゲーノの「おいらは鳥刺し」や「夜の女王」のアリアは誰もが耳にしたことのある旋律。

☆黛 敏郎（1929～1997）

東京音楽学校、パリ音楽院で学ぶ。芥川也寸志や團伊玖磨とともに「三人の会」を結成し、現代音楽界の俊英として活躍。テレビ番組「題名のない音楽会」の司会者としても有名。代表作には、梵鐘の音をコンピューターで解析してオーケストラで再現した『涅槃交響曲』、三島由紀夫の小説に基づくオペラ『金閣寺』、忠臣蔵を題材としてモーリス・ベジャールが振付けたバレエ『ザ・カプキ』など。

<文楽>

無伴奏チェロのための『BUNRAKU』は、1960年に倉敷の大原美術館30周年記念行事のために作曲され、大原総一郎に捧げられた。文楽（人形浄瑠璃）の世界をチェロで表現したもので、三味線の音色はピチカートで、語りの義太夫節は弓によって奏でられ、あたかも近松の世界が眼前に迫るようである。

☆ヴィターリ、トマソ・アントニオ（1663～1745）

イタリアのヴァイオリニスト、作曲家。1674年、父ジョヴァンニ・ヴィターリとともにモデナのエステ家の宮廷に仕えた。1707年には宮廷楽長となり、生涯モデナにとどまった。作品はすべて器楽作品。

<シャコンヌ>

19世紀のヴァイオリン奏者フェルディナンド・ダーヴィットがヴァイオリンとピアノのために編曲したものを原形として、20世紀初頭にレオポルド・シャルリエがさらに編曲したものが一般には演奏される。憂愁漂うロマン派的な旋律が美しい。

☆クライスラー、フリッツ（1875～1962）

ウィーン生まれの世界的ヴァイオリニスト、作曲家。ユダヤ系であったため、ナチス台頭の1939年にアメリカへ渡る。数々の美しいヴァイオリン曲を残している。

☆ブラームス、ヨハネス（1833～1897）

<ピアノ5重奏曲へ短調作品34>

弦楽四重奏にピアノを加えた形の室内楽曲。当初、弦楽五重奏（ヴァイオリン2、ヴィオラ1、チェロ2）の楽器編成で試演されたが不評であったため、2台ピアノのためのソナタとして書き換えてブラームス自身が初演した。その後、クララ・シューマンの助言などで、ピアノ五重奏曲として書き直されたもの。ブラームスの傑作のひとつ。



医療法人幸善会 前田病院

〒848-0027 佐賀県伊万里市立花町 2742-1

TEL 0955-23-5101 FAX 0955-23-3315

URL:<http://www.maeda-imari.or.jp>